

# ニンカン・ネット通信

ニンカン・ネット

7

Vol.

2008. 2. 16

【発行】ニンカン・ネット 〒466-0833 名古屋市昭和区隼人町19 南山短期大学内 Fax (052) 836-6543 (南翔会事務局)

ニンカンといっつながらの中で、  
培われた豊かな文化を感じました。  
「つま、いじ」に起る「つる」を  
的確に捉え表現する力…

社会に「地の塩」のような存在として、  
ニンカンの卒業生が生活していることを  
確認することが出来ました。  
今回、皆さんと再会して、  
私が出た一番大きなことです。

(長尾文雄)



# ニンカン・ネット企画 ミニ講座

## 春のミニ講座 2007年5月19日

### 「リーダーシップはあなたのもの」

【講師】星野 欣生先生



「リーダーシップと聞いて、皆さんはどんな言葉を浮かべますか。」星野先生の質問に、25名の受講者から次々に意見が寄せられます。リードして行く、引っ張って行く、まとめる役割、ただの仕切り屋ではないetc...様々な意見が出され、最初から活気があります。先生はそれに対して、「リーダーシップとは、集団や組織の目標達成に向けてなされた発言や行動が、人間関係（コミュニケーション）を通して他のメンバーに与える影響の過程」と説明されました。「リーダーシップは、リーダーだけのものではなく、メンバーは誰でもリーダーシップを発揮できるわけで、リーダーシップ≒メンバーシップである。」という提言に、目からうろこ、ハッとした瞬間でした。

グループに分かれ、いよいよ「ハケ岳小学校」という実習に入ります。これは、個人に無作為に配られたカードの情報を口頭で伝え合い、チームとして課題を解決していく実習です。最後にグループ内で「誰の、どんな言動が、どのような影響を与えたのか」を話し合い、メンバーとしての役割、機能を明らかにします。カードに書かれてあるのは、断片的なことばかりで、最初は不安でしたが、情報を

### 参加者の『ふりかえり』

- 「リーダーシップ」という言葉にかなり強い固定観念があることに気づきました。「リーダーシップ」は常に転移するのはグループの成長になる...ということがよくわかりました。又、自分のくせもわかり、日常生活の言動の反省点となりました。(5期)
- 会社経営をしています。人材育成やチームビルディングにおいて、現実の実践の中で生じていた迷いがスッキリしました。本当にありがとうございました。ニンカンは人生のベースです。(17期)
- やはり学生の時よりも実習の内容がよくわかります。今回の講座内容は日常会社で仕事しているとよく起こることですので、今後活かせれば最高ですね。人間生の皆さんに久しぶりに会えたのもうれしかったです。(6期)

2007年春（5/19）、秋（9/8、10/14）の講座を開催しました。その内容をまとめましたので、ご紹介します。

伝え合ううちにだんだん完成して行きます。実習と回答の発表まで入れると45分くらいですが、どのグループも熱くなり、<sup>ケンケンガクガク</sup> 直々誇々で、短大時代に戻ったよう。

最後に、先生のまとめの話がありました。メンバーの役割としては、目標達成に貢献したパフォーマンス機能と、集団の形成や維持に貢献したメンテナンス機能があります。また、チームとしては、一人がずっとリーダーシップをとるのではなくその時々に合わせて、いろんな人間がリーダーシップを発揮する場面が理想です。先生が最初に話された「リーダーシップ≒メンバーシップ」という提言が、ストンと胸に落ち、理解できました。「お互いに助け合いながら、影響し合ってほしい。今日の実習では、フィードバックの時の方が、活発な意見が出されたので、オープンに言い合える関係が実生活にもあるといいね。」という言葉が印象的でした。



- 実習に熱が入ってしまい人を見ること・人の話をきくことを忘れがちな自分に気づかれます。私に足りないのは「人の話をきくこと」と毎回気づかされます。(1期)
- 職場でリーダーであることを求められているので、この題名をみてすぐに申し込みました。先生のお話をきいて「リーダー」と「リーダーシップ」は異なることが明確になりました。自分のできることは何か、自分の得意、不得意をどのように生かすかを考えさせられました。「リーダー」とは、という課題が呈示されるのを楽しみにしています。(12期)
- 自分の固定概念をふりはらうのがむずかしかった。(実習の)結果はよくなかったがその後の気づきがたくさんできてよかったです。グループの人とたくさんふりかえりができました。星野先生の実習はいつも毎回違ってびっくりすることやとまどうことが多いですが実習を終えるとさわやかな気持ちになります。(6期)

## 秋のミニ講座 2007年9月8日

### 「あなたの『傾聴』再点検!!」

【講師】長尾 文雄先生



現在、長尾先生は30代後半から60代の女性を対象に傾聴ボランティアの養成講座をされています。参加者全員の自己紹介で、Tグループや創造性開発などの合宿で長尾先生とご一緒した思い出される方も多くいらっしゃいました。

今回はペアで聞き手と話し手に分かれ、それぞれのあたえられた役割で会話を通してどう感じたか実習しました。まず話のテーマが決められ、それに対して聞き手が否定したり、目を見て反復して聞き返したりと10パターンの役割を交代で行いました。

話を否定し続けるのは難しく大変だったり、熱心に聴いてもらえてスムーズに話ができてうれしかったりと皆さん様々な意見、感想がでました。

傾聴とは単なる受身の作業ではありません。相手にエネルギーを集中してかかわる作業です。自分の考え、意見、主張、感情、欲求、期待などを横において、相手の話を聴き、相手の考え、感情、欲求を受けとめる姿勢です。

やりとりの中ですぐに相手の気持ちをわかりあうことは

### 参加者の『ふりかえり』

- 傾聴の実習を通して、丁寧に人の話をきくことを実感できた。違和感があったり、うれしくなったり、相手の人に関心をもてたり、正直に深く話してくれたり、新鮮な体験がさすがに良かった。この夏の間、少し自分のことばかり関心をもってこもっていた気がするので、また、人に関心をもって丁寧にかかわってみたいとベクトルが少し外に向いたように思う。心動かされる、温かくて新鮮な体験を長尾先生、皆さん、ありがとうございました。(5期)
- 「自分のことはまず横に置いておく」ということが傾聴にとって大切だと教えていただいたので、これから少し気に留めながら会話してみようと思いました。先生の温かい人柄が伝わる楽しい時間でした。末期ガンのご夫婦の「そばにいてくれるだけでいいの」という共に息をする、という話は、2年前に亡くなった母を思い出して涙が出そうでした。その前にも友人がガンで亡くなり、つくづく生きているこの時間が大切だと思えてなりません。(6期)
- 普段いかに相手が話しにくいきき方を自分がしているという事を知りました。とてもよい時間がすごせました。(20期)
- 自分がいつも人の話を横取りしているのがわかりました。相手の言いたいことを受け止めてから、相手の気持ちの背後にあるものに気づくことが大切だと思いました。(6期)

できません。しかし自分が相手を受け入れようと努力することで、相手ももっと反応を返してきます。その結果やりとりがさかんになり、相手の気持ちに近づくことができます。

積極的傾聴は相手の気づきや態度変容そして変化への勇気を生み出します。聞き手自身も自分の内面的な変化をもたらし、成長に大きな影響を与えるのです。

人の気持ちに共感するのは容易ではありません。しかし人の側にいることでその感情を共感できることもあります。病で苦しむ人の痛みをそのままわかちあうことはできませんが、側にいることによってその人の痛みが軽減されることもあります。長尾先生はご自身の経験により「共に生きる」とは「共に息をする」ことだと思うと話されました。

聴くというお話から共感のお話まで幅広く深いお話をさせていただきました。



- 長尾先生の授業は初めてだったのですが、おだやかな語り口にとっても安心した気持ちになりました。自分自身は伝えることも聴くことも得意ではなく少し苦しい実習でした。ここ一番という時には、相手を理解し、相手に伝え返すことができるようになりたいと思いました。(12期)
- 今まで自分はどちらかという聞き上手だと思っていました。でも、それはただ自分のことを話すのが苦手で、それに比べたら、ふん、ふん、と相手の話を聞いている方が楽しかったからなのかもしれません。よく『話を聞いてくれるだけでいい』という言葉を目にしますが、やはり話し手にしてみたら相づちを打って聞いてくれるだけではなく、何かしら感じたことを返してほしいと思っている、ということを実習を通して改めて感じました。少しでも返そうと思うとそれだけ相手の話のすみずみにまで耳を傾けるようになり、信頼関係ができていく...今でも相手の話をいい加減に聞いていたつもりはありませんが、決して一方通行にしないという意識をいつも持っていきたいと思えます。家族や友達などまわりにいる人を大切にしたいと思えます。(6期)
- やっぱり久しぶりに「ニンカンの授業」を受けると楽しいです。卒業してはや...あー数えられない!! あまりいにしえの事なので学生時代のことは思い出せないのですが、学生の頃とはいろいろ違う気づきをしているのでしょうか。また機会があればぜひ参加させていただきます! 皆さんにもオススメです。(6期)



秋のミニ講座 2007年10月14日

「伝達・反応・観察」  
(コミュニケーションの基本を考えよう)  
【講師】星野 欣生先生



普段私たちは言葉を交わしあい、同時に相手を見ながらコミュニケーションをしています。近頃はパソコンや携帯のメールなど、コミュニケーションの手段が変化して、声に出してコミュニケーションをすることが少なくなりました。その結果、コミュニケーション不足がおきて、人間関係や世の中の風潮がかわり、その延長上に「赤福」や「白い恋人」など企業の無責任な問題も起きています。大人がしてきたことが「無責任の社会」を生み出しています。

なぜそうになってしまうのか、どうすればよいのかについて、コミュニケーションの基本を実習しながら考えてみましょう。

- コミュニケーションをするには、3つの力が必要です
- ①伝達する(話す)力と相手の言うことに対して反応する(聴く)力
  - ②受容する力  
考え方や価値観の違う相手でも違うことを理解して受け入れる力
  - ③観察する力-目で相手をよく観ること  
意識して観ていると、人は身体からいろいろなサインを出しています。  
言葉は時として、うそやぼかし、あいまいにすることなど相手の態度や出方で使い分けられます

が、身体の実現(表情など)は正直です。心と身体は連動しているため、心で起きていることが、そのまま身体に表れます。よって、言葉にして言っている事と、身体の出ている信号が一致しているかを見極め、注目し、確認することが必要です。

コミュニケーションの原点は「観る」ことです。目で相手をよく観ることによりいろいろなことがみえてきます。そしてそこから対人関係も変わってきて、コミュニケーションがうまくいくようになります。

〈実習〉

- ①「流れ星」“コミュニケーションはツーウェイで”を体験した。先生の情報に従って「流れ星」のテーマで絵を描きそれについてふりかえりをする。
- ②「話す」「聴く」「観る」“コミュニケーションの実際”を体験した。4人組をつくり、その中でペアをつくり、話し合う人と観察する人の役割を決める。実習を通して気づいたこと、学んだことを4人でわかちあう。



参加者の『ふりかえり』

- ・色々な期の卒業生の方とお話ができて、とても楽しかったです。またとても勉強になり、今後自分の生活でも活かしていけたらと思います。  
すごく前向きな気持ちになりました。(19期)
- ・久しぶりの星野先生の講座で、先生の柔らかい口調とニンカンの雰囲気はほっとしました。日々の子育てに追われ、ニンカンで学んだことを日ごろのママ友達やいろんな人との関わりに活かしたい、と思いつつ、一人よがりな考え方になってしまっていたのですが、今一度リフレッシュし、軌道修正できたように思います。(ふたりのおチビちゃんの面倒を見てくれたパパ、どうもありがとう!) 機会があったらまた受講したいと思っています。(23期)
- ・ニンカンを卒業してかれこれ30年…。初めてミニ講座に参加させていただきました。おそらく参加される方々は私より若い方で見知らぬ人たちではあるけれど、懐かしい「星野欣生」という先生のお名前をたよりに紛れ込み(?)まし

た。理不尽なことにも「ハイ」としか言えないものすごいタテ社会の職場に疲れ、「伝達・反応・観察」(コミュニケーションの基本を考えよう)という講座に参加してみようと思えました。今日はよい場をいただきました。(3期)

- ・コミュニケーションにおいて、よく見るのが大切なのだということがわかったので、「これからは、同じ職場の人の状況をよく見て行動しよう。」と思えました。とても気になるお話をありがとうございました。久しぶりに先輩や後輩の方と一緒にグループ実習ができて、楽しかったです。また機会があったら参加したいと思っています。(9期)
- ・常に真に「わかちあい」ながらコミュニケーションをとるというのはとても大変です。特に、夫婦、家族など身近で大切な人とそれをすべきだとは思いますが、つい気楽さもあっておろそかにしてしまいます。しかし、そのおろそかにした積み重ねが、とりかえしのつかない一大事を生む元になるかもしれません。あなどれないものですね、コミュニケーションって…。これからは日頃のコミュニケーションから意識して、少しずつでも改善していきたいと思っています。(21期)

ニンカン・ネット奨学助成活動 ～学ぶあなたを応援します～

「ニンカン・ネット」では、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》 講座受講料の50% (限度額5万円)、大学等への入学・編入費用のうち5万円を補助します。

- ◆申し込み受付期間 第8回(春期4月～8月) 2008年3月末受付締め切り  
(春期・秋期の年二回) 第9回(秋期9月～3月) 2008年8月末受付締め切り

《一般助成コース》 人間関係科卒業生を対象にした同期会一回につき1万円を補助します。

こちらの申請は随時受け付けています。

☆申し込み方法、選考方法など詳しくはお問い合わせください。またHPでも詳細をご覧ください。

問い合わせ先 E-mail:jyosei3@ninkan-net.jp (HP内に問い合わせ用フォームがあります。)

「ニンカン・ネット」奨学助成を受けられた方々

12期 三輪裕里子

青山心理臨床教育センター・セミナーコース受講

私は今回2度目の助成金申請になります。何度も申請するのは恥ずかしい思いもありましたが、前回同様快くご案内くださったご担当者様と助成を承認して下さった先生方に心より感謝しております。前は、同センターの初級コース受講時に申請させて頂きました。心というものは知り尽くせるものでもなく、また時代と共に新たな問題やアプローチ法が出てくるものでもあり、学びたいと思うといくらでも学ぶことができます。学び続けるのは諸条件が必要ですが、学びたいと思った時にこのニンカン奨学助成制度のおかげで学ぶことができました。

23期 今井理恵

大阪市立大学大学院 後期博士課程(教育方法学)入学

私は、教育方法学を専門に研究しています。私が「教育っておもしろい!」と思ったのは、ニンカンでの学びがきっかけでした。4年間の社会人経験のあと大学・大学院で教育学を追求する旅が始まり、現在の位置にいます。

カーブの多い曲線形の生き方をしている私ですが、研究の柱に据えているのは、ニンカンで学んだ「共にある」です。子ども一人ひとりが、ヒト・モノ・コトとのかかわりやつながりの中で学びを深めること、そして豊かに学び合う関係性を構築していくプロセスに関わる教育方法学をこれからも追求していきたいと考えています。

27期 中瀬 智

南山大学大学院人間文化研究科 教育ファシリテーション専攻入学

助成、そしてこのように紹介頂け、大変うれしく思います。助成は書籍の購入に充てさせていただきます。たしか就職ガイダンスの日、階段教室で「ニンカンの大学院構想」を聞いたとき、「わたし、行きます!」と片手をあげて立ち上がりそうになったこと、今でも覚えています。めげそうな日もありますが、無事「卒業」をここで宣言させていただきます。

16期 土屋一美

南山大学大学院 人間文化研究科 教育ファシリテーション専攻入学

卒業後17年を経て再び学生になりました。社会人経験を踏まえてあらためてラボラトリー方式の体験学習に魅力と可能性を感じています。入学してみると、授業以外にも関連する講座、学会など研究のために参加したくなるものがたくさんありました。

奨学助成は私にとってそうした講座や学会へ参加するのをたやすくしてくれています。

会社勤めと学生の二足の草鞋は正直しんどいと思うときもありますが、奨学助成をはじめ学びを支援してくれる存在に研究への力をもらっていると感じています。







# メリット先生からの贈り物の会

グラバア俊子



通信6号でお知らせしたように、グラバア先生の呼びかけで昨年3月24、25日 ベタニアにて「メリット先生からの贈り物の会」が開催されました。

3月24日なつかしのベタニアに1期生から25期生まで16人が集まりました。また、参加できない1期生から「ある日の出来事」という素敵なお便りを寄せていただきました。まず自己紹介で盛り上がり、3時間という設定が何と無謀なものだったか反省させられました。一人が一つ、メリット先生とのエピソードを語り、聞き手はそこから受け取ったメッセージをポストイットに書くということで進めました。

興味深かったのは、メリット先生に会ったことのない25期生たちの反応でした。立派で厳しい人というイメージだったそうです。もちろんこの会で、印象は変わりました。

その日のお茶は、メリット先生もたいそう気に入ってくださった、Feel at Easeで特製のグレープフルーツ・ゼリーを作ってもらいました。晩はうなぎがメインのメリット・メニューでした。結局、皆の書いた紙片の整理はおとまり組が夜中までかかってやり、まともは宿題になりました。

25日は、3人が八事霊園へお墓参りに行きました。

## メリット先生から受け継いで大切にしていきたいもの

上記「メリット先生の贈り物の会」の参加者のみなさんのメッセージです。

- ・今本当に必要なものは何か、何が本当なのか、マスコミに流されないで自分で考え、確かめる。
- ・大切なものを見極める眼
- ・傾聴：真剣に聞く。創造的に聞く。イメージする力を養う。聞くことは集中力を養う（TVよりラジオがよい）。
- ・今、目の前にいる人と関わることを大切にすること。
- ・その人の側に寄り添うこと。
- ・受容：その人をそのまま丸ごと受け止め、深く（見えない過去も）受容する。その人の一番よいところを見つけて認める→その人が自由になる。→今までの枠（BOX）から出ることを可能にする。
- ・相手を思いやる、もてなしの心。
- ・やらなければならない事は、きちんとやる。取り組む姿勢を自他に問う。
- ・その人の深いところにある願いや可能性（その人の見ていないものも含めて）を信じ、生かすこと。
- ・今ここで出来ることを大切に、思うままに楽しむ。
- ・行動するとき、広い視野と、ねらいや目的意識を持つこと。
- ・愛の実践：愛の働き手となること。
- ・許すこと。
- ・自分に正直になる。今その時の感情を大切にすること。

- ・自らが楽しむこと。
- ・フィードバックにより、人間を深く知ること。
- ・役割を担っていること。
- ・食べもの、ものを大切にすること。
- ・ニンカン・スピリット
- ・今も続くメリット先生の存在そのもの
- ・教育は、相手(学習者)のことを中心に行われる。
- ・主体的な学びを促進する。
- ・目的と意図を共有化する。目的・意図・配慮を大切にモノゴトを進める。
- ・優しさと厳しさ。
- ・妥協しないで最善の方法を考えるそのプロセス、共有化が大事である。
- ・学生に対する姿勢・・・厳しさからは学べない。学ぶには心の豊かさが大切。
- ・祈ることの美しさとその力
- ・学生のための教育：教育を受ける側の立場に立って、教師側の思いを実現するのではなく考えることが大切。
- ・メリット先生がいたから南山短大人間関係科ができた。
- ・自ら気づく、気づかせる：一番大切なのは、その時々自分の気持ち
- ・人の可能性を大切に、信じ続ける。あきらめない。
- ・自然体：自然と一つになってしまう感性。自然と戯れる。あるがまま。
- ・形式に囚われない：枠にはまらなくて良い。もてなしは心。

私が〈メリット先生からの贈り物の会〉に参加したのは、うわさのメリットさんを知りたいという気持ちからでした。印象に残ったのは、メリットさんの学生や授業に対してのまっすぐさです。メリットさんは、「この授業は、学生にとってどういう意味があるのか」と話し合いをよく行っていた事を聞きました。まさにニンカンの原点を見た思いがしました。その時ニンカンの輪が時を越えて広がったように、大きな輪が広がるのが私にとって、メリットさんからの贈り物のような気がしました。メリットさんは私にも繋がっていると実感できた一日でした。 (25期 木村美穂)

# メリット先生、ありがとう



## メリット先生似顔絵 発見!

昨年の夏、山口先生がメリット先生の蔵書、資料を整理されていた時にこの似顔絵を見つけられました。どなたが描かれたのかはわかりませんが、とてもよく特徴が出ていて、メリット先生を知っている方達ならきっと「わぁ、すごい」と思わず口に出されたのではないのでしょうか。みなさんに見ていただきたくて載せました。お心当たりのある方はどうぞお申し出ください。

## お花代会計報告

メリット先生葬儀の際に、お花代を協力していただき、ありがとうございました。主にグラバア先生が、メリット先生の遺された資料の整理をしてくださっています。お預かりしたお金は、その際の備品代に使わせていただいています。今後も責任を持ってお預かりします。(有志一同)

## 5期榊原葉子さんから

おたよりが届きました。

メリット先生のタネまき（通信6号 吉田昌美さんの文）の話。私にもメリット先生はタネをまいてくれました。何の授業の時だったのか思い出せません。5年後の街の風景、10年後の街の風景などの大型カードをみた記憶があります。その授業の時、メリット先生が、「戦争はあなたたち女性こそが無くすることができる。」とおっしゃいました。その言葉がずっと私の心の隅にありました。今、憲法9条を改正しようという動きがあり、その言葉が頭から離れません。戦争をなくするにはどうしたらいいのか。私にできるのは子どもたちに平和の大切さを語ることだと思い、その話をよくします。「戦争は嫌だ」とみんなで言いましょ。メリット先生にいただいたタネを私は子どもたちにまいていきたいと思います。人間愛の花をいっぱい咲かせるため、世界が平和であるために。

## 逝去一周年記念式

2007年9月15日（土）メリット先生の逝去1周年の記念式が、愛知聖ルカ教会（尾張旭市）で行われました。聖書の朗読、お祈り、メリット先生のお好きだった聖歌を皆で歌いました。また、人関7期の川浦佐知子さん（南山大学心理人間学科准教授）が、メリット先生の残された膨大なメモ、手紙、論文、書籍等の整理に立ちあわれた時の印象や、懐かしい思い出を話されました。

この日は、3月にベタニアで開催された「メリット先生からの贈り物の会」の報告メッセージ（A4両面）も配られ、先生のお人柄が伝わってくる贈り物をいただきました。

式後のティータイムでは、アップルパイに、ジャズを生演奏！メリット先生も、一緒になって楽しんでおられると思えました。参加された卒業生の皆さん、ありがとうございました。 (6期 諸岡千佐子)

	収入	支出	残金
カンパ合計	77000		
葬儀供花		42000	
納骨花代		5000	
お墓花代		3600	
一周忌花代		5000	
写真・額		2256	
資料整理備品掃除グッズ		8500	
資料整理文具		7168	
合計	77000	73524	3476



## グラバア邸訪問

H19.7.22 (日)

夏の暑い一日、5期（小川さん、園木さん、林さん）6期（杉山さん、私）の合同メンバーで、旧小原村（現在は豊田市小原地区）にあるグラバア先生のお宅を訪問しました。朝9時半過ぎ、小川さん運転の車は、猿投グリーンロードを降り、田園地帯を走ります。途中、新鮮たまご専売所に少し寄り道。私たちの目的は、グラバア先生の新築された別館の内装手伝いですが、全員バーベキューの昼食にワクワク。近所の方に聞きながら、10時過ぎにやっと目的地に到着しました。

木の香りも清々しい別館は2階建てで、先生の長男、ケン君の住居も兼ね、卒業生などが宿泊することもできます。スコットランド製のスタンドグラスがきれいで、メリット先生のメモリアルコーナーもできる予定。作業の前に、教育ファシリテーターの大学院生やスタッフも交え、庭でバーベキューです。ご飯を炊く人、火を起こす人、ホイル焼きの仕度をする人など様々…先生の「洗濯がたまっちゃって」の一言で、私は洗濯開始。目の前に



はのどかな風景が広がり、全部干し終えた時の爽快感がたまりません。横では、これまた先生の依頼なのか、ガー子（杉山さん）が窓ふきをしています。あまりの猛暑で、外で食べると大変なので、誰かが、ざるとひもで上手に運ぶ道具を作り、焼きあがった肉や野菜を皿ごとリビングに上げました。そんなことが、すごく楽しい。目的はこれだけじゃないけど、皆お腹いっぱい食べました。



午後からは、分かれて作業開始。私は、卒業生製作のタイルを特殊ボンドで壁面に貼ったのですが、タイルが重くて支えるのに大変でした。色とりどりのビー玉で床を装飾するのは、想像力がかきたてられ、とても楽しかった。室内のペンキ塗りをしている人は、においと戦いながら手早く仕上げていました。皆で何かを作るのは、意見がまとまらなくて難航する時もあるけれど、できあがると達成感があります。大人だけでやるのは、もったいない感じで、「子供を連れて来たら、また違うね。」という声も聞かれました。作業は夕方には一通り終了し、先生も一緒に車で20分ほどの土岐の温泉に行き一日の汗を流しました。夕食後、名古屋には9時頃到着、ちょっとした小旅行です。今度は泊りがけで、星空の下でグラバア先生のポディーワークができればいいなと思いました。 (6期 古山美保)

## ニンカンネット 新スタッフ紹介

### 山本恭子 (25期)

昨年よりスタッフになりました25期の山本恭子です。相変わらずのマイペースですが、講座や通信を通じて卒業生みなさんがまたニンカンに触れるきっかけのお手伝いが出来たらいいなと思います。

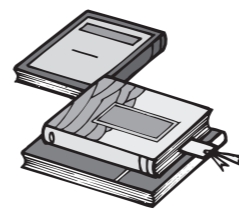
### 木村美穂 (25期)

25期の木村（旧姓：堀端）美穂です。ニンカンに関わりたくてネットメンバーになりました。短大に戻ってニンカン生に関わると頭も心もリフレッシュ！ 大切ななにかを思い出させてくれます。ニンカンしたい方、一度遊びに来てください。ニンカンの輪よ、もっともーっと広がれ！

## 読書ノート

# トルストイの娘

伊藤雅子先生



2007年12月27日、私の人生は、51年連れ添った夫の病没によって大きく変わってしまった。夫は工学系の学部出身であるが、専門分野以外の「読書」も好きな人だった。

また、大学の仕事に忙しい時期も国際学会に出て、新しい理論や学説に耳を傾けるのも好きだった。特に2年に1回、世界各地で開催される国際統計協会の大会には積極的に参加し、何回かの発表もした。私は夫の「身の回りの世話」をする同伴者としていくつかの学会に参加し、とても多い「同伴者用観光」に参加するのも大きな楽しみだったが、海外で開催されるこれらの大会の前後には当然、長い「空の旅」のことを考えなければならなかった。

旅行の日程が決まると、私たちはその長い旅行の合間に何を读もうかよく議論しあった。

「いつか時間があったら読もう」と思っていた長編の本を読むのに、成層圏を飛行する長時間の空の旅は、またとない機会だったと思う。私たちはまず、シンガポールの空港の書店で見つけた、かの有名なミケランジェロの伝記「Agony and Ecstasy」を手にとった。

翻訳されたものが大分前に日本語でも出版されていたと思うが、私はミケランジェロが素材となる大理石を探しにローマ郊外の大理石石切り場に出かけたとき、大きな石のなかに彫刻しようとする人物の肖像を見出すシーンに感動したことを思い出す。あれからもう何年経ってしまったのだろう。

夫は塩野七世さんのイタリア人の物語、特に「ローマ人の物語」は好きだったようで、我が家の本棚には彼女の著書が何冊か収まっている。なぜ、彼は塩野さんの著書が好きだったか、面と向かって聞く前に彼は逝ってしまった。塩野さんのものはまだエッセイくらいしか読んだことがないので、今は彼の書棚に残された塩野さんの本を私も読んでみようと思っている。夫はトルストイの「アンナ・カレーニナ」や「戦争と平和」も読んでいた。

私たちの青春時代には、まだパソコンは存在せず、若き情熱を「読書」という名作の旅に費やすのはよくあることだったが、「読みたくても読む時間がない」とか「余裕がない」とはその頃、正当な理由であり、時には言い逃れで

あったりした。そのような「穴」を埋めたいというのも私たちの世代にとってはごく当たり前のことだったと思う。私はドストエフスキーを選んで「カラマーゾフの兄弟」や「罪と罰」を機内持ち込み用のバックにしおぼせた。

ロシア作家のものは、その時代的背景などを熟知しておく必要があるが、今回ご紹介するアレクサンドラ・トルスタヤ著「お伽の国—日本、海を渡ったトルストイの娘」もその意味で、私が文豪トルストイについて眼を見ひらかされた1冊と言えることができる。それまで、私の中で「トルストイ」は白いお髭の謹厳なロシア人というイメージしかなかったが、この本を読んで、彼が晩年当時のロシアの思想と相容れず、苦勞し、僻地農家の納屋で過ごしたことなど初めて知った。私はこの本を「お伽の国—日本」に引かれて手に取ったが、ロシア語で「トルスタヤ」は「トルストイ」のことだとは本を読み始めてから知った。

著者であるトルストイの四女は彼女が26歳の時、父の家出に深く関わり、彼の死後、ヤスーナヤ・ポリャーナにトルストイ思想（この思想の何たるかもそのうちに調べなければならぬ）に基づいた学校を設立し、土地の農民の子供たちの教化につとめた。1929年にロシアでの思想的弾圧を避けて来日し1931年にアメリカ合衆国に亡命した。私自身が生まれた頃、世界は大きく動いていたのだ。今回ご紹介する著作は、彼女の2年という短い滞日期間の見聞記である。彼女はさまざまな苦難を経て、ニューヨーク郊外にトルストイ基金を設立し、1979年、95歳でその生涯をとじた。

外国人の目から見た日本の生活は、何時も私に新しい発見の機会を与えてくれているが、この本で著者が「お伽の国」と呼んだ日本についても、また文豪トルストイについても多くの発見に満ちている。本としては200ページほどの、手にとって読みやすく、バックの中にも収まる本なので、新書版の本のように手にとって読まれることをお勧めする。

# ニンカン・ネット 掲 示 板

## ◆ 講座情報 ◆

◇ニンカン・ネット企画ミニ講座◇

- ・星野先生 2008年5月17日(土)
  - ・グラバア先生 日時、会場は未定
- ※詳しくは、決まり次第ホームページに掲載します。

## ◆ 寄付のお願い ◆

「ニンカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。

《振込先》

三菱東京UFJ銀行 八事支店 普通 1715892  
ニンカン・ネット 代表者 伊藤雅子  
\*名前と期(学生番号)を必ずご記入下さい。

～ご寄付をいただいた方、ありがとうございました。～

## ◆ Thanks! ◆

表紙文は、ミニ講座後長尾先生からいただいたメッセージの抜粋です。

表紙イラストは、11期 青山芳美さん、先生方の似顔絵は、16期三井由紀子さんにかいていただきました。また、編集・印刷は尾頭橋印刷所をお願いしました。

## ◆ スタッフ募集します ◆

ニンカン・ネットは、2001年スタートから常時10人ほどの卒業生で企画、運営していますが、さらなる活動の充実のために、スタッフを募集します。

- ・定例会：毎月第3土曜日、午前11時～午後1時  
(8月、12月は原則休み)
- ・場 所：南山短期大学3番教室(地下)、21番教室(2階)
- ・交通費：全額支給(愛知、三重、岐阜県内)
- ・活動内容：「ニンカン・ネット通信」の作成、ミニ講座の運営、助成金の管理

日時、場所の変更などがありますので、事前にお問い合わせください。その他不明な点は、古山美保(6期 旧姓：木村)までご連絡ください。

TEL (052) 723-3827

## ◆ コンサート情報 ◆

南山短大のOGによるハンドベルコンサートのご案内です。卒業後も活動を続けている仲間たちのベルの音色を是非お聴きください。

◇メリット・ベル・リンガーズ◇

2008年3月23日(日)「AB-リンガーズコンサート」出演  
港文化小劇場

午後1時半～ 入場料無料

2008年6月下旬 「中部ハンドベルフェスティバル」参加  
会場は未定

尚、メリット・ベル・リンガーズでは現在メンバーを募集しています。毎週土曜日にNo.2教室で練習をしています。自由に見学もできますので興味のある方は是非お越しください。(場所変更の場合もありますので事前にお問い合わせください。)

問い合わせ：人関21期 足立有美

E-mail：yumi.a.-0326@ezweb.ne.jp

## ◆ 記事、表紙イラスト募集します ◆

次号への投稿をお待ちしています。また、表紙イラストは「通信の顔」なので、「何か表現してみたい!」と思っている方は、ぜひご連絡ください。

担当：11期 清水みどり FAX (052) 781-0890

E-mail：staff4@ninkan-net.jp

## ◆ 編集後記 ◆

今年度は、フレッシュなスタッフが2人も増え、ミニ講座も3回実施し、5人の方に奨学助成することができました。通信は、硬いもの、柔らかいもの織り交ぜた記事ですが、いかがでしたか。食品偽装、ガソリン高、株価低迷と暗い出来事の昨今、せめて気持ちだけは明るく、健康であれと思います。(6期 古山美保)

## ◆ ニンカン・ネット 問い合わせ ◆

ホームページ：<http://www.ninkan-net.jp>

E-mail：staff4@ninkan-net.jp

(※アドレス変わりました)

FAX (052) 836-6543 (南翔会事務局)